

農業技術

プリズム

アスパラガスの収量低下は県内で問題となっていますが、諫早湾干拓地の圃場（ほじょう）でも硫安適用圃場において収量が低下しており、土壌化学性を調査すると交換性カルシウム不足によるPH低下が一因であると考えられました。そこで、石灰資材の施用によるPH矯正方法と収量について調査を行いました。

保温開始前の堆肥投入時に消石灰を土壌と混和させる方法を検討しました。この方法ではPHの矯正効果が高く、PHが上昇するにつれて（アスパラガス栽

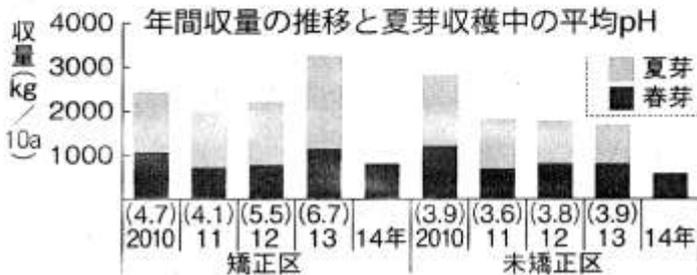
アスパラガス収量

石灰資材施用によるPHの矯正で回復も

最初はアスパラガスの株を傷つけないよう、立茎中に苦土石灰を畝の表面に施用する方法で検討しましたが、PHの矯正効果は低く収量回復につながりませんでした。そこで、株を傷つける可能性が多少ありますが、

PHが低い要因はさまざまあり、今回の方法が全ての低PH圃場に適用できるわけではありません。土壌分析の実施により要因を把握し、土壌化学性を適正にすることが、アスパラガスの収量回復につながる一つの手段だと考えます。

（県農林技術開発センター・平山裕介）



注1) 05年10月定植の「ウェルカム」での調査結果
 注2) かっこ内は夏芽収穫期間中の平均pH